

51

いにしへの登呂村びとが仰ぎけむ富士の神やまはいまも空にそびゆ
え　　とろむら　　あお　　んふじ　　かみ　　そら

と き ぜ ん ま ろ
 土岐善麿

【歌意】

大昔の登呂の村人も仰ぎ見たことだろうよ。富士の神々しい姿は今も空にそびえている。

〈鑑賞〉

登呂遺跡は、弥生時代の稲作の様子をうかがわせる遺跡として有名です。その地に立つて富士山を見ながら、同じ国に生きた古代の人たちに思いを馳せたのでしょうか。作者は石川啄木の死後、遺族を助け、全集の編集にも携わって、啄木を世の中に知らせた人です。静岡県内をはじめ、全国の多くの小中学校・高等学校の校歌の作詞もしています。

52

香貫山いただきに来て吾子とあそび久しく居れば富士晴れにけり
かぬきやま　　き　　あこ　　ひさ　　お　　ふじは

わ か や ま ぼ く す い
 若山牧水

【歌意】

香貫山の頂上に来て子どもと遊び、しばらくいたところ、雲がはれて雄大な富士の姿を仰ぐことができたよ。

〈鑑賞〉

「富士よゆるせ今宵は何の故もなう涙はてなし汝を仰ぎて」なれ「草の穂にとまりて啼くよ富士が嶺の裾野の原の夏の雲雀は」等、一人で百首もの富士山の歌を詠んだ作者。晩年は富士をのぞむ沼津で過ごし、次男に「富士人」という名前も付けました。香貫山は狩野川沿いの、子どもでも登れる山です。かつて千本松原が伐採されそうになった時、立ちあがったのがこの若山牧水だったということは、県の内外でもっともっと知られてよい逸話です。

53

富士の上に青き空あり日輪のすがたはなくてまひるしづけし

柳原白蓮

【歌意】

富士山の上に青い空がある。太陽の姿はなくて、静かな真昼である。

〈鑑賞〉

上空は青い空、真昼なのに太陽は見えない。一時的に雲に隠れているのでしょうか。超現実の世界を感じさせるような、不思議な静けさのある一首です。

54

富士山の頂上なれば登山者どち人間同士のよしみを感じず

木下利玄

【歌意】

富士山の頂上なので、登山者達はお互いに親しみを感じているよ。

〈鑑賞〉

富士山に登る人は多く、登山道も整備されていますが、いざ登ってみるととても大変です。その苦勞をともしたからでしょうか。他人であつても人間同士の親近感があるというのです。作者は十代から頭角を現し、千九百十年には武者小路実篤や志賀直哉らとともに文芸誌「白樺」を創刊した歌人でした。

55 あかときの星かがやきてくろぐろと富士のいただき目の上に見ゆ

こいずみちかし
古泉千樫

【歌意】

あかつき

暁の星が輝いて、黒々と富士山の頂上が目の上に見えている。

〈鑑賞〉

御来光を仰ぐ登山の途中の歌なのでしよう。頂上で日の出を拝もうと暗い中を歩いていると、暁の星が輝く中、富士山の頂上が見えたときの状況を詠んでいます。

56 しづけさは湖にうつれる富士のかげ一鳥飛ばず一魚躍らず

よしいいさむ
吉井勇

【歌意】

静かなのは湖に映っている富士山の影だ。鳥が一羽飛ばず、魚が一匹も跳ねない光景だ。

〈鑑賞〉

ピンと張り詰めたような緊張感のある歌です。湖面に映る富士山。その姿を乱すものは何もない——漢詩のような下の句が生きています。作者は他に、「朝夕に富士ををろがみ祈るなり清らにつよくわれを生かしめ」「富士見れば心いよいよ澄むおもひ日本平にたたずむわれは」という歌も遺しています。坪内逍遙に認められ、脚本家としても活躍した作者は一時期、静岡市にも住んでいました。

57 富士ふじの雪ゆきかく思おもほえぬ鄙ひなの村むらの裏山うらやまのうへに、尖えばかり見みゆ

しゃくちようくう

釈 迢 空

【歌意】

富士山の雪がこんなふうに見えるとは思わなかったよ。田舎の村の裏山の上に、その頂上だけが見えている。

〈鑑賞〉

富士山は思いがけず見えることがあります。田舎の村、ふと見上げると裏山の上に、雪を頂いたいた富士山の頂上だけが見えるというわけですよの学問といわれる民俗学者としても著名な作者は浜松の水窪みさくぼなども訪問しています。句読点を多用し、常に表現方法も探求し続けた歌人でした。

58 山やまの夜よのしらじら明あけに見みえながら富士ふじはまぢかし峡かいの門との空そらに

はんだりようへい

半田 良平

【歌意】

山の夜が白々と明けるころに見るからか、富士山が間近く見えている。山間の谷間の向こうの空に。

〈鑑賞〉

山の夜が白々と明ける頃、富士山が山と山の間の谷間から、とても間近に見えている、という一首です。大正・昭和期に活躍した作者は、英語の教師をしながら短歌をつくった人でした。

59

うつくしき^{あけぼの}の曙^{ふじ}の富士と吾と国土^{われ}おなじ^{こくど}う生まれ^{じゅうう}つる幸^{さち}

くじょうたけこ
九條武子

【歌意】

美しいこの春の明け方に見る富士山と、私自身とが同じ国土に生まれ
たという幸福を感じている。

〈鑑賞〉

美しい富士山を見たときの感動を、同じ「国土」に生きている幸福と
して詠んでいます。富士山を愛^めでているのは、私たち人間のみならず、
動物や植物たちもなのかもしれません。

60

耳^{みみ}なし^よのわが夜^{ゆめ}の夢^{おと}に音^{おと}もなく^たしのび^{おおふじ}立ち^{みね}たり大富士の嶺

おかもと
岡本かの子

【歌意】

何かを聞くこともない私の夜の夢に、音もなくそつと立っている大
きな富士山の峰。

〈鑑賞〉

当時、作者は中耳炎に苦しんでいました。この歌は夢で富士山の姿を
見たのでしよう。富士山が私の夢に音も立てずに忍び込んできたとい
う一首です。岡本太郎さんの母としても知られる作者は、「桜ばないの
ち一ぱいに咲くからに生命^{いのち}をかけてわが眺めたり」「さくらばな花体を
解きて人のふむこまかき砂利に交りけるかも」などの短歌でも有名で
す。